国際ワークショップ

第一次世界大戦再考

Rethinking the First World War in Japan

100 年後の日本で考える

日本を含め、文字通りグローバルな規模で大きな衝撃を及ぼした第一次世界大戦は、「現代世界」の起点になる出来事と評されます。開戦からまもなく 100 年になろうとする今、私たちは大戦の歴史的意義をどのように受けとめるべきか、近年の大戦研究を牽引してきた代表的な歴史家たちとともに、日本という場で改めて考える機会をもちたいと思います。

日　時: 2014 年 1 月 12 日(日)、13 日(月・祝)
会　場: 京都大学時計台記念館国際交流ホール
（吉田キャンパス、本部構内）
参加費: 無料

主なスケジュール:

★1月 12 日(日)　13:00-17:40

山室信一 「アジア史における第一次世界大戦」
ジョン・ホーン 「第一次世界大戦と戦後の暴力:「野蛮化」再考」
ゲルハルト・ヒルシュフェルト 「ナチズムと第一次世界大戦の記憶」
全体討論
＊終了後、懇親会(有料。本部構内カンフォーラにて)

★1月 13 日(月・祝)　13:00-17:40

アネット・ベッケル 「戦時において芸術家・著述家であること」
オリヴァー・ヤンツ 「グローバル／トランスナショナルな第一次世界大戦研究:オンライン事典プロジェクトに寄せて」
ジェイ・ウィンター 「第一次世界大戦再考:100年後の後に」
全体討論

事前登録制(登録無料、先着順。6 月 5 日より登録開始予定)

主催: 京都大学人文科学研究所、同研究所共同研究班「第一次世界大戦の総合的研究」
共催: 「第一次世界大戦と現代世界の変貌についての総合的研究」(科研費・基盤A)
連絡先: 事務局(藤井俊之) 075-753-7092 fjit@zinbun.kyoto-u.ac.jp

報告者プロフィール （登壇順）

■山室 信一 京都大学人文科学研究所教授

主な著作：

▼『複合戦争と総力戦の断層－日本にとっての第一次世界大戦』（人文書院、2011）▼『日露戦争の世紀－連鎖視点から見る日本と世界』（岩波新書、2005）▼『キメラ―満洲国の肖像 増補版』（中公新書、2004）▼『思想課題としてのアジア－基軸・連鎖・投企』（岩波書店、2001）など

■John Horne ダブリン大学トリニティ・カレッジ教授

主な著作：

▼(ed.), *War in Peace. Paramilitary Violence in Europe after the Great War* (Oxford 2012), with Robert Gerwarth. ▼(ed.), *A Companion to World War I* (Chichester 2010) . ▼*German Atrocities in 1914: A History of Denial* (London and New Haven 2001), with Alan Kramer.

■Gerhard Hirschfeld シュトゥットガルト大学教授

▼(ed.), *Encyclopedia of the First World War* with Gerd Krumeich and Irina Renz (Leiden 2012)▼(ed.), *Scorched Earth: The Germans on the Somme 1914-1918* (Barnsley 2009) with Gerd Krumeich and Irina Renz. ▼*Deutschland im Ersten Weltkrieg*, to be published, 2013.

■Annette Becker パリ第十大学教授

主な著作：

▼*Biographie de guerre de Guillaume Apollinaire 1914-1918-2009*, (Paris 2009). ▼*Les cicatrices rouges, 14-18, France et Belgique occupées*, (Paris 2010). ▼*La Grande Guerre à hauteur d'œil, 1914-2014*, to be published, 2014.

■Oliver Janz ベルリン自由大学教授

主な著作：

▼*Bürger besonderer Art. Evangelische Pfarrer in Preußen 1850-1914* (Berlin 1994) ▼(ed.), *Transnationale Geschichte*(Göttingen 2006), with G. Budde and Sebastian Conrad. ▼*Das symbolische Kapital der Trauer. Nation, Religion und Familie im italienischen Gefallenenkult des Ersten Weltkriegs* (Tübingen 2009).

■Jay Winter イェール大学教授

主な著作：

▼*Sites of Memory, Sites of Mourning* (Cambridge 1995) ▼*Remembering War* (New Heaven & London 2006)▼(ed.), *The Legacy of the Great War*, (Columbia & London 2009).